

I 言葉と現実とを結び付ける力を育て 学ぶ楽しさを体感する授業改善の試みについて ～ 国語科授業改善（文学教材）6つの視点 ～

小学校低学年における国語科の物語文を教材とした授業において、「授業改善の6つの視点」を明確に持ち、「音読・動作化・吹き出し」といった活動をふんだんに取り入れることで、言葉から場面の様子や人物の心情を立体的に想像する力を育成するとともに、学ぶ楽しさを体感できる授業を目指し、実践した。

1 実践の具体

① 国語科授業改善（文学教材）6つの視点

付けたい力につながる学習問題づくりや、言葉による見方・考え方を鍛えるための「物語を読むコツ」の明示、人物の言動を具体的に想像するための「思い浮かべようシート」の活用等を通して、深く広い読みができるように支援した。また、学習や活動への満足感や充実感をもたせるようにした。

② 低学年における国語科三種の神器「音読・動作化・吹き出し」

今までの表面的な読みで終わってしまった単元と比べると、「音読・動作化・吹き出し」といった活動をふんだんに取り入れることで、場面の様子や気持ちをより立体的に想像する楽しさを味わうことができた。

2 実践の成果と今後の方向性

授業に消極的だった児童が、叙述を基に考え、気持ちや様子を想像することが楽しくなり、意欲的に国語科の授業に取り組む姿が見られることが増えた。1学期の単元と比べ、読むコツを使っていくことで、深い読みができ、そのことに喜びや充実感を感じる児童が増えた。初めから分からないと諦めていたり、自信がなく発言が少なかったりした児童が、徐々に減少していくというような成果も得られた。

今後の方向性として、学習問題を設定していくのが難しいと感じている。そこで、教師主導の学習問題の設定から、徐々に児童主体の学習問題設定へ移行していく手順や方法を明確にしていきたい。また、学習内容の精選や活動の焦点化等、教師が取り組むべき教材研究の効果的な方法も明らかにしていきたい。